



News Release

2016年5月25日
NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会

日本トラベルヘルパー協会、温泉入浴介助サービス認定講座を新設 第1弾は6/24、東伊豆の稻取東海ホテル湯苑にて開催

NPO 法人日本トラベルヘルパー協会(東京都渋谷区、代表理事篠塚恭一)では、旅行などの外出先で要介護者に介護サービスを提供する「トラベルヘルパー」を養成していますが、新たに温泉観光地で入浴介助サービスを提供する認定講座を開始します。第1弾は、株式会社 SPI あ・える俱楽部およびトラベルヘルパーセンター東伊豆の協力を得て6月24日、東伊豆の稻取東海ホテル湯苑にて開催する予定です。

新講座の名称は「トラベルヘルパー(外出支援専門員)養成 & 温泉入浴介助サービス認定講座」で、基礎講座であるトラベルヘルパー3級の講義内容と入浴介助の実技を1日で学べる研修です。対象は介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)などの介護資格取得者(勉強中も可)で、受講料は初回特別価格として3級の受講料と同じ1万5000円(税別)です。介護旅行サービスを提供するSPI あ・える俱楽部では、他の旅行会社等と協働し、介護旅行人材の育成を通じて、温泉地での観光サービスの振興を図る狙いがあります。

今回、東伊豆を選んだ背景には、次の3点が挙げられます。

- ① 伊豆地域では、これまで様々な箇所で、健康を志向したバリアフリー旅行の受け入れについて取り組みがあった
- ② 近年、それらを静岡県主導により組織横断でユニバーサルツーリズムネットワークが組織化された
- ③ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の受入地として名乗りを上げている自治体として、東伊豆町も位置づけられている

SPI 社長でNPO 日本トラベルヘルパー協会代表理事の篠塚恭一は、「この研修会は、温泉観光地において超高齢者時代に必要な新しい観光サービスを市民活動の中からつくりだすことを目的として、介護の必用な方(高齢者、障がい者、子供連れ家族)等に対して、入浴介助サービスを提供する人材の養成を図るもので、休眠ヘルパーの掘り起し、現役ヘルパーの活用による介護保険外の新たなサービス雇用の創出も図ります」と述べています。

■トラベルヘルパーについて

NPO日本トラベルヘルパー協会で専門教育を受けた“介護旅行の専門家”。3級、準2級、2級、1級のランクがある。入浴介助や移動介助、結婚式の同行から、国内・海外旅行までお客様に適したサービスを行い、お客様主体のお出かけをサポートしています。

■あ・える俱楽部について

すべての人が、「いきいきと(Act・Active)」、「その人らしく(Ease・Enjoy)」、「愛のある人生(Love・Life)」を送ることを目標に活動をしている会員組織。介護旅行の草分けとして20数年来、高齢や障がいをもつ方の外出をサポートしてきた株式会社SPIが提供。介護旅行への関心の高まりもあり、年率10~20%のペースで利用者が伸びています。

日本トラベルヘルパー協会ホームページ: <http://www.travelhelper.jp/>

SPI あ・える俱楽部ホームページ: <http://wwwaelclub.com>

一本件に関するお問合せ先

NPO 法人日本トラベルヘルパー協会

TEL: 03-6415-6688 e-mail: info@travelhelper.jp